

(5) 美しくやすらぎのある景観形成のための課題

○ 農地の保全・育成

「さと」の広大な農地（水田）は、広々とした景観を生み出し、特色のある景観を形成しています。

これらは、良好な緑として維持されているものの、農業者の高齢化や後継者不足による農地の減少、荒廃化が発生し、農業を取り巻く環境が大きく変化しています。今後は、農地の減少を補完する工夫により、魅力にあふれた豊かな農地の保全が課題となります。

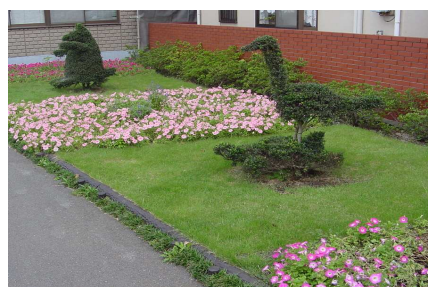


「さと」の田植え風景

○ 美しい景観を生み出す「まち」の緑化推進

大山・日向などの「やま」の緑は、市域の何処からも望むことができ、緑豊かな『伊勢原』の景観を印象付けていますが、開発が進む市街化区域内では緑被率が7.2%と少なく、緑は不足しています。

このことから、市街化区域における公共用地や民有地の緑化を推進するとともに、緑に関する基準整備や景観計画等により、美しくやすらぎのある街並み景観の形成が課題となります。



街角の花壇

市街化区域では、緑化を図ることができる用地も限られるため、緑の整備や管理の方法に課題が生じる場合があります。特に、市民が日常的に接する街路樹などの緑を保全・創出していくには、整備主体や管理者となる行政だけではなく、市民の積極的なかわりが必要となります。

○ 都市の顔づくり

伊勢原駅周辺や行政センター地区は、商業・業務地の中心拠点であるとともに、市民の活動拠点です。

このように都市の顔でありながら、開発等による高度化・高密化が進み、緑の少ない景観となっています。このことから、都市の顔にふさわしい美しく潤いのある景観形成のため、重点的な緑化推進が図られるよう緑に関する一定基準を設けるなど、公共施設や民有地の緑の増加や質の向上を図ることが課題となります。



伊勢原駅北口の景観

○ 大山街道や日向街道の魅力形成

大山街道や日向街道は、大山・日向の歴史的地域資源と結び付き、多くの市民や観光客が利用する都市軸となっています。しかし、観光資源等の結び付きを考慮した魅力ある街道整備が遅れていることから、旧街道にふさわしい沿道景観の形成が課題となります。



日向街道を演出する彼岸花



大山街道を演出するカキの木

子易地区のカキの彩りは全国農村景観百選に選ばれています。

○ 歌川・渋田川、鈴川などの親水整備

渋田川の芝桜に代表されるように、河川空間を利用した緑化は、やすらぎのある景観を形成するとともに、水質浄化や不法投棄防止などの河川美化の啓発にも役立っています。

今後も、地域住民の憩いの場や観光資源として利用できるよう、遊歩道の未整備区間の整備や河川空間を利用した緑化を進め、河川を軸としたやすらぎのある景観を形成するとともに、親水護岸等の整備など自然に優しい親しみのある空間づくりが課題となります。



日向川での水遊び



渋田川の芝桜